

日仏工業技術会創立50周年記念式典に参加して

国際印刷大学校長
工学博士 木下堯博

2004年11月13日、日仏工業技術会創立50周年記念がモンフェラン駐日フランス大使出席のもと東京恵比寿の日仏会館で行なわれた。

この日仏工業技術会は1954年（昭和29年）故菊池真一先生により設立され、今日まで日本とフランスの学術文化交流に多大の貢献を果たしてきた。

当日の記念講演会では本多健一先生（東京大学名誉教授）が「太陽エネルギーの化学的変換—日仏の歴史のかかわり—」の題目で行なわれ、ニープス、ダゲールの写真の発明から光電気化学と光触媒反応、二酸化チタンの酸化力による汚染物質の除去などの応用分野などフランスでの交流成果が発表された。

続いて遠藤守信先生（信州大学教授）が「カーボンナノチューブ—その歴史と未来—」について、オルレアン大学でのカーボンナノチューブの発見とその応用の関しまとめられた。いずれも画像メディアとの関連があり、印刷の応用分野の広がりを再認識した。

カーボンナノチューブの国際会議が翌週に長野県で開催され、遠藤先生が中心となり、各分野の研究が報告された。

日仏工業技術50巻第1号（2004）特集創立50周年号で小川真理子先生（東京工芸大学教授）が「父（菊池真一先生）の日記」の小論が寄せられ、日仏工業技術会の設立の様子が1954年（昭和29年）9月よりの日記を掲載していた。この式典の出席者には前日（11月12日）の名城大学での日本印刷学会秋期研究発表大会で終日一緒させていただいた尾鍋史彦日本印刷学会会長の他、賛助会員で表彰された富士写真フイルム、味の素、資生堂、東芝、鹿島建設など各界から多くの参加者があった。

著者とフランスとの出会いは学生時代の第2外国語でドイツ語のほかフランス語も学習し、御茶ノ水にあるアテネフランスに1953年夜間通学したことから始まった。

また、大学3年（1955年）の専門課程で菊池先生から電気化学、写真化学を学び、卒業研究では凸版製版の電解腐食、大蔵省印刷局研究所（現、国立印刷局研究所）で平版金属板砂目立ての電解研磨など電気化学の応用分野を研究してきた。

1964年（昭和39年）ドイツに留学した時、フランスの印刷専門大学、1992年パリ TPG（国際印刷展）ではソルボンヌ大学、2004年 drupa で OECD 本部、ギメ美術館、リヨン印刷博物館などフランスとの学術文化交流を深めてきた。

1955年の菊池真一先生の出会いに始まり、本多・藤嶋両先生からの学位論文の指導と学術文化交流まで日仏工業技術会同様、半世紀に及ぶお付き合いがあり、この式典を契機に一層の飛躍をしなければと思った。

なお、日本印刷新聞社創立55周年記念特集号（2004年11月13日発行）「奇しくも同日」に「世界の印刷メディアの教育と研究」小論で本多・藤嶋両先生のノーベル化学賞候補の記事をまとめた。「日本印刷学会誌2004年6号原稿」（2004年11月13日記）